

## 第五話

### <あらすじ>

富士の激戦を終え、旧友、ラックと再会したフィル。トゥーレの情報を交換しつつ、変わらない友情を誓い合った。一方、鳳市の方では行方不明者が増えているらしい。警察も手に負えないのと、ガリスディアの関与もあるということで調査を続けると、鳳市の北、グンマのほうに奈落エネルギープラントを発見する。プラントのコントロールルームに潜入し、機能を停止することには成功したが、中にいた奈落獣の襲撃を受ける。彼らを率いていたのは、イズモの警察に所属しながら、私利私欲のためにガリスディアと協力していたカネノ＝モージャ。人質と取り、煙幕と罨をばら撒いて足を止める奴の卑劣な戦法に翻弄されながらも、最後まで屈することなく撃破する。（一部犠牲が出てしまったが、奴がヤケクソに放った一撃のせいなので批判は最小限に収まった） ついでに通称「モリカケ問題」も奴の仕業であることが分かり、イズモに密かに蔓延っていた悪の一端をも潰すこともできたのだった。

### <感想>

メタリックガーディアン二大コンマイ語なる遮蔽と制圧が登場。ピンチにはなりえなかったがとにかくイライラさせてくれる相手だった。（完全遮蔽はイグニスなければ割と詰みコースだったが）

### <マテリアル：5>

トゥーレの食糧事情は戦時中かつラフが奈落技術をバンバン使ってくるせいでお世辞にもいいものとは言えない。いちおう、食料プラントはあるらしいがしよせんは人工的に作られたもの。あと、海産物が特産物であったがこちらも奈落汚染のせいで自由に食べられるものではなくなってしまっている。

その点、イズモの食糧事情、というか食料文化はフィルにとって感慨深いものであった。トゥーレにはなかった白いご飯、奈落汚染されていない新鮮な海産物。とりわけこの2つが一緒に食べられるという「スシ」はフィルの好物である。一方で納豆は匂いがあまり好きではない模様。

あとイズモでは麺類のバリエーションも多岐に渡っている。うどん、そば、ラーメンなど…。もりそばとかけそばの誤記載からはじまった「モリカケ問題」がイズモの人々に関心を集めたのもうなずける。なお、後日、シャトー艦長が日ごろの戦いを労ってそばを「おすそわけ（イズモの言葉）」してくれたという。

「おすそわけ」と言えば、久しぶりに母からカステラが送られてきた。母の姿はしばらく見ていないが、いったいどこにいるのだろうか。しかし、イズモの時代劇とやらで見た「山吹色のお菓子」からカネノ＝モージャのことを思い出してしまった…。

## 第六話

### <あらすじ>

鳳市近くの海中で熱源が確認され、調査に赴く一行。海中には棄てられた2つの研究所があり、熱源があるのは第一研究所のほうだったが、ヒナタの強い希望もあって第二研究所も調査することになった。第二研究所にはたびたびヒナタに語り掛けてくる声と同じ声のメッセージが残されていた。彼女は「ヒナタ」と「ヒカゲ」なる二人の子供を木星で保護したと語るが、彼女の正体は分からずじまいでさらなる謎だけが残された。

一方、第一研究所では「GOZILA」なる大怪獣が目覚めていた。GOZILAを止めるため、地上へと戻るが、そこに現れたのはディスティニーのパイロット、ヴァンガードだった。GOZILAは奴が目覚めさせたという。GOZILAの無限の防御と攻撃の仕組みを暴き、無事GOZILAを止めることに成功する。ヴァンガードのほうは大気圏外まで突き上げる一撃をブラフマーにお見舞いした後、なぜだか満足気に撤退していくのであった。

### <感想>

GOZILA、無限ニョルドと無限ティールだけでもあんなに強敵になるもんですね。このキャンペーンではボスの加護構成もユニークでやってみたくくなります。ちょっとした手違いのせいでギミック解除まで遠回りする羽目になったけど。

今回はライブ回、そして、宇宙行きはトゥーレ回、か。がんばらねば。

ところで、10万点のダメージ出まかせかと思いきや実際には上級ルールブックに記載がありましたね…（大気圏突入時のダメージ）

### <マテリアル：6>

#### スナイパーライフル

もとはブラフマーの同型機としてロールアウトされる予定だったヴィシユヌのもの。戦線の激化に伴い、様々な状況下で戦えるようにかき集めた武装のうちの一つ。敵の大群の合間を縫って攻撃できるようになる。ブラフマーは遠距離射撃向きの機体ではないが、機体のチューンナップとフィルの超人的な集中力によりギリギリ運用できている、が、運動性が下がるため、敵陣を突破する際にはホイホイ捨てられる（もちろん、戦闘が終われば回収する）。

#### フィルとヴァンガード

ヴァンガードはイツモにもたびたび襲撃を仕掛けており、フィルも何度か交戦した。ディスティニーがラーフからの組織であることもあり、不倶戴天の敵である。GOZILA戦ではフィルのことを「テロリスト」と侮蔑した。それに対し、フィルは口では突っぱねるも、戦闘後、その言葉について思案を巡らすようになった。ガリスディアと戦うことはトゥーレと戦うことになってしまうのか。フィルの目は、ガリスディアと戦いながら、もしかしたらトゥーレの上立つかもしれない剣に向けられていた。